

## 二校で八面山登山 体験学習 《ふれあい推進センター》

一〇月二十九日、秋が深まった八面山へ、高知県四万十市立西土佐小学校五年生二二名と教諭三名、



西土佐小学校、ブナ林でネイチャーゲームの様子

十一月一二日には愛媛県松野町立松野西小学校四年生二六名と教諭二名を案内して、八面山登山体験学習を行いました。

準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などを学習しながら、約五〇分で八



松野西小学校、ブナ林で森林教室

面山山頂（一、一六五m）に到着しました。

山頂では、遠くに見える三本杭（一、二六六m）のすぐ右の山、横の森という所に、藩政時代、土佐藩と

宇和島藩と吉田藩とがそれぞれの領地の境として杭を立てていたことから、それがいつのまにか「三本杭」という現在の山の呼び名になっていて話をすると、驚いていました。

その後、八面山吊尾根のブナ天然林へ移動して、職員より、森林の持つ様々な働きを説明した後、自然散策やネイチャーゲーム「カモフラージュなど」をして楽しみました。

この森林教室で、実際

に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、森林への興味や関心が深まり、森林学習の一助になったものと実感しています。

ししまんと黒尊  
むらまつり



秋も深まった十一月二日、高知県四万十市西土

佐黒尊の黒尊親水公園で、黒尊川流域の住民グループ「ししまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で、第一〇回「ししまんと黒尊むらまつり」が開催されました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、周辺の三原村や土佐清水市からの団体客など沢山の来場者で賑わい、老若男女にマイ箸作りやク

当センターは、四万十森

来賓あいさつの  
田口森林整備部長



林管理署の応援もいただき、「みんなで作ろう」コーナーで、マイ箸作りやクマのストラップ作りの担当をしました。

老若男女にマイ箸作りやク

老若男女にマイ箸作りやク

マのストラップ作りを楽しんでいただきました。

メイン会場となった親水公園では、地元の食材をふんだんに使った巻き寿司、炊き込みご飯、山菜おこわ、猪汁、シカの串焼きなどが所狭しと並び、買い求める人の行列が絶えませんでした。



みんなで作るコーナーの様子

また、紅葉を近くで楽しんでもらおうと企画された

「神殿橋紅葉狩りツアー」も人気で、来訪者は地域の料理を食べて、紅葉を見て、黒尊溪谷を満喫された一日でした。



一〇月一四日、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二六名を対象に、一二月二四日には、高知県宿毛市立小筑紫小学校五年生一四名を対象に、「水の土壌浸透実験」を実施しました。両校ともに、毎年度「総合的な学習の時間」を利用

水 土 壌 浸 透 実 験 の 様 子  
(松野西小学校)



して森林や樹木等の学習をしております、これまで三回の森林教室を実施しました。四回目となる今回は治山模型を使って「森林のある山」と「森林のない山」を再現し、二班に分かれて、ジョウロで雨を降らせて実際に、森林の持ついろいろな働きについて実験しまし

た。

樹木や枯葉を通して出てくる水は、薄い濁りでビーカーに溜まっていくのに対し、木も枯葉もない土がむき出しの模型からは、いつまでも濁った水が溢れるように流れ、家の模型が傾くたび、児童達からざわめきが起きました。土がはがれて底板が見えるまでになった「森林のない山」の模型と、変化の少ない「森林のある山」の模型と、それぞれ水を入れた量や水の出した量を計算して、その変化の違いを比較するなど、この実験の様子を、しっかりとメモをとって学習をしていました。

実験後には、パネル等を

使って、森林には「水を蓄える」、「土砂崩れを防ぐ」、「快適な環境を作る」など大切な働きがあることをふりかえり学習しました。

最後に児童から、今日の実験等を通じて感じたことの発表があり、「森林のない方の山側には、家を建てて



水 土 壌 浸 透 実 験 の 様 子  
(小筑紫小学校)

住みたくないです。」「森林の無い山の方が森林のある山より、水が多く出て驚いた。水の色も全然違った。」等の感想が述べられました。



十一月六日、徳島市立宮井小学校と連携して、一年生二三名、二年生児童一三名を対象とした森林教室を実施しました。

宮井小学校での森林教室

は初めてでしたが、他校で森林環境教育を実施した時の先生が転勤で来られて、「宮井小学校でもやって欲しい。」との要請により実施に至りました。



動物マスケット完成

その後、「昆虫」や「動物」のマスケット等の木工製作を行いました。児童たちには、事前に準備していた、木の土台や輪切りに木の実や小枝、端材等を使い、工夫しながら作ってもらいました。児童は、目を輝かせて、夢中になって、作品を作っていました。

最後に完成品を見せ合い「楽しかった」との感想をもらい、森林教室は楽しい雰囲気の中、終了しました。児童の中には「じいちゃんの家が田舎やから、どんぐりや木の実をいっぱい拾ったことがある。」「今日、学校に来るときにどんぐり拾うて来た。」などと、作品を作りながら話してくれ

た子供もいて、「自然に触れ合っているんだ。」と嬉しく思いました。これからも学校や地域の要望に応えられるように、「楽しく分かりやすい」森林環境教育を実施していきたいと考えています。



一〇月一七日及び一八日の両日、愛媛県久万高原町の恒例イベント「第四五回久万林業まつり」が同町のおまつり広場外で開催され、大勢の家族連れや観光客などで賑わいました。

町内の林業関係者らでつ

くる実行委員会が毎年開催し、林業をメインとしたこのようなイベントは全国的にもめずらしく、林業にまつわる資料や新製品、研究成果などの展示のほか、特産品や音楽ライブなどの催しもありました。

当署も毎年参加しており、今回も技術普及課の応援のもと、石鎚山系に生育する珍しい植物の写真パネルや、間伐材で作られた様々な置き物の展示と、主に小学生を対象に間伐材を使用した「木のプレートづくり」や「ハロウインのドアノブ飾りづくり」コーナーを設け、二日間で来場した親子約一五〇組がチャレンジしました。

木のプレート作り



毎年来てくれる親子も多く、「いつも楽しみにして来ています」と話しながら、どんな模様にしようかと頭を抱えながら絵を描き、枝などで作った昆虫部材を貼り付ける作業をしていました。

が長くなるため、残念ながらあきらめて帰る親子もいるほどの人気を集めていました。屋外では、家族連れらに無料提供された町内産のスギ材を使い、親子で協力して切り分けた木を丁寧に組み立て、日曜大工に汗を流す姿が見られ、このイベントで木材にふれあう貴重な機会が多かったのではないのでしょうか。当署としては、このような林業の活性化に繋がる行事には今後とも積極的に参加し、国有林のPRを行うとともに、たくさんの方に木に親しんでもらいたいと思います。



一〇月一九日、高知県宿毛市立片島中学校の三年生四九名と先生六名が、森林の大切さや保全に関する正しい知識を得て、これからの環境保全や生態系環境のあり方について学び、森林が生活にどのように関わっているかなどを体感する森林学習を目標にした篠山登山を行いました。篠山は高知県宿毛市と愛媛県愛南町、宇和島市の予土県境に位置し、古来より霊山として地元の人々から親しまれている地域の

篠山での森林学習



シンボリックな山で、駐車場から約1kmと比較的、短時間で登ることが出来ます。前日に引き続き、篠山を管轄している当森林管理署と愛媛森林管理署の職員により生徒達をサポートしました。登山前には、森林についての学習、篠山についての説明、現在取り組まれているアケボノツツジ保全活動、安全な登山についての注意などを行いました。普段は山に登ることがないという生徒達でしたが、みんな快調な足の運びで故郷の山を登りました。登山中には、タイミングよく山伏の修験者がホルンを吹くという場面にも

あうことができ、また、樹齢一四〇〇年といわれる大杉に触れ、木の持つパワーを感じ取る姿もみられました。秋晴れの好天に恵まれ、はるか石鎚山や宇和海が見え、四国の折り重なる山並みに皆、感激しているようでした。

来春には中学校を卒業しそれぞれの進路に進む生徒達ですが、今回の登山を原体験として、自然や山の魅力を感じとり、森林や林業等に理解を持つてくれることを期待したいと思いま



一〇月二五日、高知県宿毛市にある中筋川ダムで開催された「第二〇回螢湖まつり」において、「木工教室」を開催しました。

「螢湖まつり実行委員会」では中筋川ダムを地域の交流拠点として位置づけ、イ

ベントの開催の場や、体験学習の場、様々な情報発信基地等として利用し、地域の活性化を図り、来訪者に対して森林やダム河川等の重要性をアピールし、治水事業に対する理解を深めるための活動を行っています。

当森林管理署も実行委員会のメンバーとして毎年、このイベントに参加しています。



木工教室、大盛況

今年、秋晴れの好天に恵まれ、たくさんの方々が来場があり、ダムを知るコーナーや環境コーナー、防災コーナーをはじめ多彩な催しが開かれ、ダムサイドは終日にわたって大いに賑わいました。

当森林管理署が実施した木工教室には親子連れやちびっ子がひっきりなしに訪れ、木のメダルやキーホルダー、クマのストラップなど個性あるユニークな作品をたくさん作っていました。

秋の日差しの下、大人も子供もできあがった作品を手にして笑顔が広がっています。

こうした木にふれるイベントにより、森林や樹木、自然に対する理解が少しでも広がることを期待して、今後もこうした活動に取り組んでいきたいと考えています。



十一月一日、幡多流域林業活性化センターの研修会を当署の間伐事業地で開催しました。

幡多流域林業活性化センターでは、生産事業に関する研修を積極的に開催しており、今回が三回目となっ

ています。

今回の研修のテーマは、  
① 高性能林業機械（ハーベスタ）のデモンストレーション  
② 繊維ロープを活用した集材

当日は、素材生産を実施している森林組合や林業事業体、四万十市、宿毛市の林業担当者、高知県森づくり推進課、木材増進課、幡多林業事務所、当森林管理署などから約六〇名が参加しました。

研修は、当署の榎郷山国有林の間伐事業地において、事業を実施している事業者の協力を得て実施したもので、当署の資源活用担

ハーベスタのデモンストレーション



当職員が幡多林業事務所と連絡を取り、スケジュールの調整や事業者との打ち合わせなど研修準備を行いました。また、当日は事業地にたくさんの方が集まるため、狭い作業道に何十台もの車が入ってくることから、当署の職員がその誘導や整理などを積極的に行いました。

今回の研修は、参加者に

とって興味深いものだったようで、午前中に行われたハーベスタのデモン

ストレーションでは、広葉樹で

も材の伐倒から枝払い、玉

切りまでの一連の作業を効

率よく行えることに感心し

ていました。更に、午後の

繊維ロープ集材では、ワイ

ヤーと違って取り扱いが楽

な繊維ロープの特性を活か

して、ロープの先端に取り

付けた荷掛け用フックを道

下四〇mまで投げる様子に

歓声が上がっていました。

当森林管理署では、今後

もこうした民有林と国有林

が連携した取り組みに積極

的に関わることによって、

地域の林業振興に貢献して

行きたいと考えています。

### コンテナ苗 植栽現地検討会

〈嶺北森林管理署〉



当森林管理署では一一

月一三日、高知県仁淀川

町若山谷口両平山国有林

わかやまたにぐちりようひらやま

二八七林班ろ小班におい

て、コンテナ苗植栽現地検

討会を開催しました。

当日は、雨という生憎の

天候ではありましたが、仁

淀川町、いの町、本山町の

職員はじめ各林業事業体及

び徳島県、香川県の種苗生

産者、高知県種苗緑化協同

組合、株式会社サンテクノ

など、当署・四国森林管理

### 現地検討会



た。

まず、主催者である当森

林管理署長より、今後、主

伐・再造林が確実に増加し

ていく中、造林経費の低コ

スト化が喫緊の課題であり

立木販売・生産事業とコン

テナ苗を活用した造林事業

の一括契約等によりトータ

ルコストの低減を図るな

ど、国有林としても積極的

に取り組んでいきたいとの挨拶がありました。

つぎに、総括森林整備官

から平成二六年度植栽箇所

と平成二七年度植栽箇所の

説明をし、宮ヶ平・池川首

席森林官からは活着調査の

方法と活着率の説明のほか

枯損原因等の説明をしまし

た。

今回、高知県種苗緑化協

同組合及び株式会社サンテ

クノの方々に参加されてい

たことから、それぞれ、種

苗緑化協同組合が、コンテ

ナ苗についての説明、サン

テクノからは、実演による

植栽専用器具の説明があり

ました。

参加者は熱心に聞入り、

の質問や、植栽器具についての要望や問題点などの意見が出されていました。

平成二六年度にスギコン

テナ苗を植栽してから約一年が経過していることから、実際に三本を掘り起こし苗木の根張り具合を検証しました。植栽後一年とい

うこともあり大きく根が張っている状況ではなかったものの、種苗生産者からは「一年ではあれぐらいのものが、二〜三年目から根が張り出す」等の説明がされるなど活発な意見交換の場となりました。

最後に、今後さらに民国連携や造林コスト等の技術開発が重要となってくる状況の中、このような現地検

討会を開催することは情報を共有するためにも大切なことだと改めて考えさせられた一日でした。



嶺北森林管理署において

は数十年前から、本山警察署、嶺北消防署、旧本山営林署の三署で毎年年月初めに三署会議を開催しております。

今年の会議の中で近年の登山ブームで山岳遭難者の発生率が高まっていることから、国有林を利用した合同救助訓練を実施することになり、十一月二六日に実

合同救助訓練の開会式



施しました。

当日は、高知東警察署及び本山庁舎の警察官一五名、嶺北広域行政事務組合消防本部嶺北消防署八名、航空隊地上班二名、嶺北森林管理署一三名の合計三十八名が参加しました。

午前中は、白髪山から奥工石山へ縦走中にスズメバ

チに襲われ走って逃げていたとき右足を痛めて動けない登山者がいると想定した訓練を行いました。遭難者

から警察署へ連絡があった場所が不明との想定で二班（一班約一五名）に分かれて捜索を開始しました。各機関の通信機器の状況を確認し林内へ捜

索に入り、数十分後遭難者を発見し容体の報告、応急手当後、舟形担架により搬送を開始。途中搬送要員を交代しながら林道に設置している現場捜索本部まで搬送し、

午前中は、白髪山から奥工石山へ縦走中にスズメバ

林内を搬送訓練中



あり実施しましたが、ヘリからは全く認識されませんでした。ヒノキの人工林では樹冠部分が5m四方以上開いていないと発見できないことがわかりました。(樹高にもよります)

その後、当森林管理署員から衛星電話による一一九へ救助を要請し航空隊と通信しながら防災ヘリの「右側面が見えています」といった誘導訓練を実施しました。

防災ヘリが上空に到着し隊員二名が降下し、まずは負傷者(消防隊員)一名をピックアップ、その後、当森林管理署職員が演じる負傷者一名(約七〇キロ)をピックアップし高知県本山

町内のヘリポートまで搬送し訓練は終了しました。

反省会のなかで今後も続けて行くことを確認しました。今後は、本山三署の連携を密にした山岳救助や大規模災害に備えた訓練を実施したいと考えています。



一〇月二五日、高知県馬

路村魚梁瀬で毎年開催されている魚梁瀬地区村民運動会に安芸森林管理署チームとして、署職員、魚梁瀬合同森林事務所員及びその家族、四十森林管理署よりY氏、T氏が参加しました。

運動会は魚梁瀬地区のイベントであり、去年に引き続き晴天のもと、安芸署チーム以外にも馬路村農協チーム、丸山地区・魚梁瀬小学校チーム、役場・全日本チームが参加しました。

午前中の競技では、頭に風船をつけて棒で割り合う

という「源平合戦魚梁瀬の戦」と呼ばれる激しい競技が行われました。チームで一丸となり戦わないと後ろから割られるなど生存競争の激しい戦いとなりました。

午前中では最大一〇点ほどの差がついており午後の競技で巻き返せる状況でした。昼休みには、各チームが準備・練習をしてきた応援合戦があり、今年も安芸署チームは即興で演舞を行いました。



一位を勝ち取った応援合戦

総合成績では四位という結果でしたが、応援合戦の結果でしたが、応援合戦の是一位となりました。本年も楽しく運動会に参加することができ、魚梁瀬地区の方々と交流を深めることができました。

午後からも「ザ・山師」などの安芸署チームが得意とする競技や「ぴったしカン」という村長が出した物と同じ物を当てないといけないという運を必要と



一月二十七日に、(株)エコアス馬路村の主催により、森林整備(保育間伐活用型)技術検討会が開催されました。

開催箇所は、今年度請負事業を実施している高知県馬路村魚梁瀬地区の宝蔵山国有林二一九林班で、当日は、アドバイザーとして馬路村森林組合及び高知東部森林組合、発注者として安芸森林管理署が参加し、総勢二五名での開催となりました。

本技術検討会は、保育間

伐活用型の技術向上を図るため、他の林業事業体や森林管理署にエコアス馬路村の間伐現場を見てもらい、率直な意見を頂き技術水準の向上につなげたいとの趣旨で開催されたものです。

現場は、面積二〇ha、予



森林整備技術検討会

定生産量一、二〇〇m<sup>3</sup>で、谷を挟んで両脇に尾根が平行して走っており、両脇の尾根を結んで谷を渡す形で三本の架線を張って、架線集材(ダブルエンドレスのホイスチングキャレッヅジ方式、スパン五五〇m)を行っています。谷から尾根の腹には既設の林道があり、そこに集材する形になっています。

① 森林整備(保育間伐活用型)の基本(目指す整備後の森林の姿とはどのようなものなのか、基本に戻って従業員全員の共通認識とする)

② 事業の進行管理と計

画的な事業実行

③ 選木及び伐倒技術の基本

④ 架線集材技術

⑤ 路網作設技術

①〜④の課題については、基本的な項目を現地ですべて確認しました。伐根を見ながら伐倒技術などを確認するなかで、集材機の設置位置、横取り距離が長くなる場合の集材方法について、他の林業事業体から意見が出されていきました。

⑤の課題については、これまで、同社は急峻な魚梁瀬地区を主な事業地としてきたため、作業路網作設の経験がなく、新たな取組として、今回、当初は架線集材としていた区域を作業路

網に変更することで、より集材率がアップする箇所があったことから、その箇所を作業路網区域とすることとし、丈夫で簡易な作業路網の作設方法について森林管理署から説明を行うとともに、予定路線の踏査と集材区域の検討を行いました。

エコアス馬路村は、今後、事業の範囲を広げていくためにも、路網作設技術の習得が必須と認識しており、全員が熱心に説明に聞き入っていました。その結果、作業路網を作設している現場を見に行き、路網作設の手順と技術を学びたいということになり、後日(二月二日)、他の林業事業体

が作業路網を作設して

いる現場に勉強に行きま  
した。

このように、今回の現地  
検討会では、エコアス馬路

村が他の林業事業体に自分  
達の現場を見てもらい、率

直な意見をもらうことで、  
新たな技術の取得及び技術

の向上、さらには事業改善  
意欲の向上に大きくつな

り、とても有意義な検討会  
となりました。



高知県北川村「モネの庭」  
マルモツタン・フローラル  
ホールで、東部中芸パビリ  
オン特別企画として、一〇

月一七日から一月二三日  
まで、ゆずの産地である中

芸地域の魅力をPRするイ  
ベントが行われました。

この企画展では魚梁瀬森  
林鉄道ジオラマ展も同時に

開催されており、主催者か  
ら、当署に、二日間、木工

教室及び森林鉄道等の木製  
品の展示を依頼され、一〇

月一八日と十一月二三日の  
二日間当署と技術普及課合

同で実施することとなりま  
した。

木製品の展示は、機関車  
等を模った「森林鉄道と四

季」、アニメチックに制作  
された「中岡慎太郎と四季」

をなどを展示しました。  
木工教室では、「カエル

のジャンプゲーム」や「ト

ロッコ列車」、「ドアノ  
ブ飾り作り」の材料を持参

し作製してもらう予定で  
したが、一〇月一八日は、

「モネの庭」への入園者は、  
四〇〇名を越える人でした

が、当ホールへの入館者は  
三〇〇名程度で、残念ながら、

木工教室の参加者はいませ  
んでした。来館者は、県外

ナンバーが目立ち、モネの  
庭への観光が目的で、何か

を作る、遊ぶということは、  
時間的に余裕がなかったの

ではないでしょうか。  
一二月二三日は、前回と

は違って中芸観光協会が事  
前に地元の小中学校へ、チ

ラシを配布するなどして前  
宣伝の効果があり、一二名

の親子の参加があり、ドア

ノブ飾りやトロッコ列車、  
カエルのジャンプゲーム作

りに精を出していました。  
その後、木製ビンゴゲーム

などのオモチャで遊んで、  
ケロケロカエル、ジイジイ

ゼミをゲットし、さらに、  
来場記念のカードやカレン

ダーをプレゼントされてと  
ても喜んでしまし

た。  
また、今回、

プレゼント初デ  
ビューのふくろう

(不苦勞)の携帯  
ストラップも大好

評で、用意してい  
た三〇個がすぐに

無くなりました。  
来館者は前回同

様大半の方がモネ

の庭への観光が目的でし  
た、木工教室への参加は、

一二名だけでしたが、参加  
者の方には、木の良さ、温

かさを肌で感じ取ってもら  
い、「木」や「四国森林管

理局」のPRに少しは役に  
立てたのではないかと考え

ています。



熱心に指導する技術普及課長